

5. デイケアで行う就労支援 ～プログラムに就労移行支援事業所見学を取り入れて～

川口病院 デイケア 田尻 朋子 田中 友海
本間 康美 高儀二美代

はじめに

当院デイケアでは、デイケアから先のステップへ進む関わりとして就労支援プログラムを実践してきた。生活リズムの見直し、挨拶や電話のマナーといった基本的なことから、働いているメンバーの体験談を聞く時間など就労支援プログラムに取り入れてきたが、なかなか就労には繋がらず、今なお先へ進めずにいるメンバーも多い状況となっている。そういった先へ進めずにいるメンバーに対して、昨年の反省から今後はメンバー自身が見て体感することが重要であると考えた。そうすることにより、就労についてのイメージがわきやすくなり、デイケアから先のステップへ進むきっかけの1つとなるのではと考えたからだ。

研究目的

今研究では、デイケアから就労に向けたステップへ進むためのきっかけの1つとして、実際の就労訓練の場である就労移行支援事業所の見学を実施。視覚的情報を与えることにより、就労に対しての具体的なイメージを作ること、また、施設利用等までは繋がらなくても、就労に向けた目標を持ってデイケアに参加することができるようになることを目的とした。

研究方法

対象は就労を希望している、もしくは迷っているデイケアメンバーとし、見学の希望者を募った。

①就労移行支援事業所にて、施設・作業内容についての説明を受け、作業を見学。

②振り返り用紙の記入と参加したメンバーで見学した印象や考えを話し合う時間を作る。

③個別に面談を行い、今後の就労についての考えの確認や目標の設定をする。

研究結果

①参加メンバーについて

○1回目10名、2回目6名 計16名参加

・診断名	統合失調症10名、うつ病4名	
	高次脳機能障害	1名
	統合失調感情障害	1名
・平均年齢	40.2歳	
・罹患期間	1年以上～5年未満	2名
	5年以上～10年未満	7名
	10年以上～	7名

統合失調症が最も多く、罹患期間は5年以上の方が大半を占めている。

また、現在参加メンバーの内3名が就労に向けて動いており、1名は就労移行支援事業所利用に繋がった。他2名の内、1名は就労移行支援事業所利用に向け動いており、1名は高仁会就労支援センター利用中である。

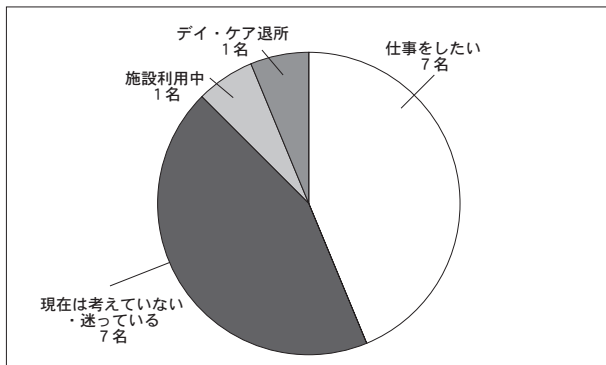
②見学を終えての意見

感想

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・参考になった・定期的に面談があり、相談できるのはいい・話の内容がわかりやすかった・作業が簡単だと思った・スタッフがついて、しっかり見てくれるのがいい | <ul style="list-style-type: none">・家庭の都合ですぐ通所するのは無理そう・作業内容に興味が無い・人間関係が気になった・利用者のコミュニケーション能力に疑問を感じる |
|---|---|

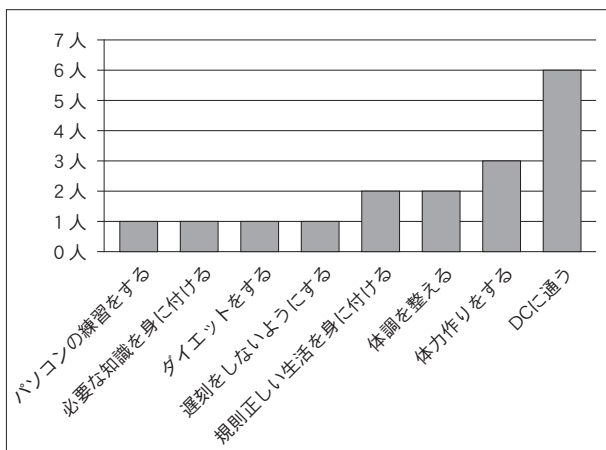
見学を終えての意見としては、定期的な面談で相談できる、スタッフがついて見てくれるのがいい、作業は簡単そうだった等、肯定的な意見が多く見られた。しかしその一方で、現在の自分の状況に照らし合わせると通所が難しい、作業内容に興味がないといった意見や、人間関係についても気になると上げたメンバーもいた。

③今後の就労について



個別の面談では今後の就労について、就労移行支援事業所を利用中の1名とデイケア退所になった1名を除き、現在仕事をしたいと考えているメンバーは7名、体力や家事等から現在考えていない・迷っていると答えたメンバーは7名いた。

④今後の目標について



今後の目標については、自分なりの目標としては立てられている。内容は「デイケアに通う」「体力作りをする」といったデイケア通所開始時の面接で聞かれる目標が多く見られた。反対に「必要な知識を身に付ける」「パソコンの練習をする」といっ

た就労に繋がるような目標も少数だけ見られた。

考察

今回就労移行支援事業所の見学を実施し、1人が実際に利用まで至ることができた。以前このメンバーから施設利用をしたいという話は全く出ていない。しかし見学実施2週間後に別の作業を見学、1ヶ月後に体験利用開始、2ヶ月後には正式利用開始と見学前に比べ急速に話が進んでいる。このことから、こういったあと1歩のところにいるにもかかわらず踏み出せずにいるメンバーに対しては就労に1つの方向性を示す役割として有効であったと考える。

全体としては、就労移行支援事業所を就労の1つの道のりとしてイメージすることができ、自分なりの目標を立てることができた。そのことは成果と言えると思う。しかし、その内容は「デイケアに通う」「規則正しい生活を身に付ける」とだけで具体的ではなく明確になっていないメンバーもいて、デイケアに通う為の目標としては立てられても、将来就労を目指すことへは繋がっていないように思われる。これは、就労を目指すステップとしては掴めていても、そこに自分を置き換えてみることでできていないからではないかと考える。

おわりに

今回施設利用まで繋がったメンバーもいたことから、実際に見聞きすることは重要であると思う。しかしそれと同時に自身が就労することを自分の中でイメージとして捉えることができるような関わりが必要であると思う。今後はどんな状況のメンバーでも一緒に行うプログラムだけでなく、個々にも対応できるような内容のプログラムも実施していかなければならないと考えている。